



最初は、地元の平和音楽祭特別合唱団による「過ちは繰り返させませんから」の迫力ある合唱でオープニング。山崎庸子さんが、辻井喬さんの詩「終わりの夢」と、1963年に平塚らいてうが書いた「世界の婦人の祈り」（抜粋）を朗読。

つづいて米田佐代子会長兼館長より「らいてうと信州」との関わりについて三

# らいてうの家オープン一周年記念 辻井喬講演会に五〇〇人

7月29日、らいてうの家オープン一周年記念・新生「上田市」発足一周年記念事業としてとりくんできた、辻井喬講演会が開催されました。

当日は、参議院選挙の投票日と重なり、何人の方たちが足を運んでくださったのかと心配でしたが、みなさんの期待は大きく、長野県内各地から、また東京圏からもバスツアーを組んでの参加者で、会場は満席となる盛況でした。

# らいてうの家オープン一周年記念 辻井喬講演会に五〇〇人

点にわたって報告、「平和を愛し、自然を愛し、みなさんと語り合うことを望んだらいてうの思いを、この信州で一緒にいかしていききたい」と結びました。そして、地元上田の名士・小宮山量平さんから歓迎のことばをいただき、いよいよ辻井喬さんの登場です。講演は多岐に渡り含蓄のある内容でした。（2面に要旨紹介）

講演後、小布施から駆けつけてくださった、桜井七七さんが、「辻井さんも自分も80歳です。憲法を変えさせないよう力をあわせましょう」とごあいさつ。

最後は華やかな、いま注目の中川美保さんによるサクソフォンの演奏を楽しみ、充実した一周年記念行事を無事終了しました。



らいてうの家の多彩なお客様  
岸田衿子さんや加藤治子さんも  
オープン2年目の今年、「家」には大勢の訪問

発行  
平塚らいてうの会  
〒151-0051  
東京都渋谷区  
千駄ヶ谷  
4-11-9-303  
TEL・FAX  
03-3401-6383

客が訪れます。5月のらいてう講座には、詩人・絵本作家の岸田衿子さんが画家の古矢一穂さんとお二人で見え、「らいてうの家のこどもたちに」とサインされた絵本をどっさりプレゼント。「気に入ったから」と8月には俳優の加藤治子さんともども再来訪、加藤さんは世田谷のらいてうの自宅を訪問されたそうで、「物静かな、きれいな人でした」と懐かしんでくださいました。

中川美保さん、大和田葉子さんも

7月には中川美保さんがいらして「長崎の鐘」などをご披露、8月11日の「夜の交流会」には、国際的に活躍中のフルート奏者 大和田葉子さんが現れて「9月22日の源氏物語講座のときに新曲演奏を」とサプライズ提案。数日後、ほんとうに作曲家の坂田列隆さんが車を飛ばされて来訪、9月22日は大イベントになりました。

団体の訪問もいっぱい

今年の特徴は、「今年もまたきました」というリピーターをはじめ、「事前学習してきた」という自主グループ、小諸、松本、武石、栃木など行政の男女共同参画関連団体の研修など、「学び」を位置づけて訪問する団体が増えていることです。

「館長の講演を」という要望もあり、そうだけでなく「説明を」と求められることが少なくありません。日本女子大の同窓会（桜楓会）や、軽井沢文化協会の大型バスでの訪問、9月2日の小沼通二さんの講座には「戦争責任資料センター」からニュース持参の参加も。そしてみんな「すばらしい家」と喜んで帰られます。ほんとうにうれしく、「家」のこれからのあり方が見える思いです。

辻井喬さん講演会(要旨)

漂流する時代に思う

―後戻りしない生き方のために―



辻井さんは、昨年1年間「信濃毎日新聞」に毎週連載したものを「新祖国論」として出版されるとのこと、その内容は憲法の問題、ナシヨナリズムの問題、日本人の国際感覚の欠落の問題、そして民主主義とは、伝統文化、共同体の問題等々をまとめられています(8月に刊行)。講演の内容も、それらの問題について具体的な例をあげてお話を展開されました。

辻井さんは「私が昨年1年考えていたことは、じつは一代、二代前に平塚らいてうさんが一生かけてとりくんでいた問題の中に、全部含まれていたように思う」と、らいてうが戦前・戦後たどってきた道筋を話されたあと、「こうしてみますと、らいてうさんは一生かけて差別撤廃、男女平等、人権の確立を主張したたかいつづけてきた人」と評価。らいてうさんとは直接会ったことはないが、青鞥社員の富本和枝さんの息子さんと中学から、亡くなるまで親交があった関係で和枝さんを通じてその慧眼に接していたそうです。そして改めて、らいてうを含めその時代の指導者たちは、真剣に祖国をどうしたら一流の国にできるかに心血を注いでいたと。

憲法・教育基本法について、「日本は私たちが放っておくと漂流を始めてしまう、らいてうのように一生かけて主権在民・平和主義を守らなければいけない。今の憲法の2つの柱である主権在民・平和主義、その上にすべての法律が枠の中で成り立っている。憲法は、そのときの権力を握っている人がその枠の中で権力を使いなさい、枠から外れてはいけなさいと権力者に枠をはめる法であり、ほかの法律とは本質的に違う中身を持っている。それを平気で動かせるような錯覚に陥っている政治家がいかに多いか、だから日本は漂流する危険にさらされている」と。しかし私たちも偉そうなことは言えないといい、批評はしてもその後の具体策をどこまで提案できているのか。たとえば「九条の会」が8千以上組織され、勢いは止まらない、が後はどうなるのかをそろそろ考えていかねばならないと思う、と指摘されました。

文化交流推進の関係で中国の指導者と会う機会が多いが、日本の指導者との違いについて「中国はどうしたら孤立せず、信頼され新中国を固めていけるかを考えている、日本の政治家はどうやって今度の選挙で票が増えるかしか考えていない」「女は子どもを産む機械」と発言した人は昔の民法で育つてそこから一歩も出ていない、そういう人が指導者につくのが問題」と。この後も、労働、環境、国連、共同体、世界と日本などなど、幅広い問題意識を提起。最後に、「われわれは決して世界中の情報が自由に入る状況で暮らしているのではない。われわれは全部知っていてその上で正しい判断をしていると思うと、大きく間違っ

ものだ。気がつかないうちにアメリカのメディアの傘の中にはめ込まれているかもしれない。そういう危険があることを常に意識し、情報を集めることが大事。新聞などには小さな記事に重要性が高いものが多い。みなさんもおおいに正論を吐いて漂流しないように」と締めくくられました。

楽しかったバスツアー  
講演会と「家」訪問、小布施散策

7月29日、総勢30名を乗せたバスは新宿を8時に出発。12時過ぎには上田文化会館に無事到着。記念行事を楽しみました。宿泊は信州の鎌倉・別所温泉に。夕食前のひと時を散策、温泉に入ってゆっくりと体を癒しました。

翌日は、「家」を訪問。米田館長の説明をお聞きしたあと、中川美保さんのサクソフォンを、広い会場で聴くのはまた違った音色で、しみじみと聞き入りました。そして、小布施の桜井甘精堂にいったときは降っていた雨も上がっていました。

昼食後、桜井甘精堂・桜井佐七さんより、小布施の歴史などお話を伺い(写真)お別れ。街を散策し、楽しかった2日間のバスツアーは無事帰路につきましました。



9月の講座から

小沼通二さんが語る  
「湯川秀樹とらいてう」

9月2日のらいてう講座は、湯川秀樹とともに核廃絶運動に参加、今も世界平和アピール七人委員会委員として活躍中の物理学者小沼通二さんをお招きしてひらかれました。購入したばかりのプロジェクトがうまく使えるかどうか、と技術者が二人も応援に駆けつけてくださいましたが実に快調、湯川秀樹さんが卓球に興じている写真なども見せていただきながら、分りやすいお話に聞き入りました。



小沼さんによると「戦時中の湯川はすぐれた物理学者であったが、特に政治に関心をもつことはない普通の市民だった」。しかし広島・長崎の原爆投下の惨状を知り、また末の弟さんが戦病死した悲しみを原点に「戦争は常に人類の幸福の破壊者である」と確信して、ラッセル・アインシュタイン宣言に参加、世界連邦思想にも共鳴していったそうです。湯川の人間像を知り、またらいてうと湯川夫妻との交流のいきさつもよくわかりました。東京や千葉の方も参加、終了後も涼しい風の入るベランダで懇

談が続くよい会でした。

なお、8月19日のらいてう講座は、米田館長による「らいてうと宮沢賢治」をテーマに、これも2人がともに「協同」をキーワードに戦争のない世界を望んでいたという平和論でした。近くの別荘から軍隊体験をもつ斉藤さんご夫妻も参加、「天皇陛下バンザイ」といって死んだ兵隊などいなかった」という体験談に、みなうなずきあいました。

＊ ＊ ＊  
おいしいお料理で夜の交流会

8月11日の夕方、らいてうの家で地域交流会がもたれました。室内の明かりを受けて、夜の闇の中に輝くスタンドグラスを鑑賞し、昼の光で見るとはまったくちがった暖かな色合いに感激しました。真田、上田、東京などからの参加者で、持ち寄った美味しいお料理と、軽井沢から飛び入り参加して下さった、フルート奏者の大和田葉子さんのフルートのCDを聞きながら、木の家の持つ魅力を堪能した一夜でした。



たのしい交流会、右端が大和田さん

定款改定に伴う新理事体制  
正式に発足

4月の総会で承認された定款の改定が、8月15日、東京都より承認を受け正式に実施の運びとなりました。主な改定点は、理事の増員（「15名以内」を「30名以内」に変更）と、常任理事会をおいたことです。これにより実際に家の運営に参加できる方々に、理事になっていただくことができました。

同時に、「家」の運営だけでなく、会の活動を多面的にすすめられるようにしていく予定です。

【理事】

飯村しのぶ、井上美穂子、植草充代、折井美耶子、木村康子、小池道子、小林明子、小林典子、斉藤慶子、坂口久美子、杉山洋子、関町好子、谷藤寿子、玉川みさか、中寫邦、花岡静枝、堀江ゆり、三留弥生、山田繁子、米田佐代子、米山淳子

【常任理事】

米田佐代子、小林明子、山田繁子、米山淳子、井上美穂子、木村康子、小池道子、三留弥生、杉山洋子、花岡静枝

【役員】

名誉館長 羽田澄子、会長兼館長 米田佐代子、副会長 折井美耶子、木村康子、中寫邦、堀江ゆり、事務局長 小林明子、事務局 山田繁子、米山淳子

また、長い間理事として活躍された塩谷満枝さんは退任されました。これまでのご苦勞に心より感謝申し上げます。

# シリーズ らいてう再発見



三木さんは九州若松で石炭業を営

## 若山喜志子がわが家に

上田市・茂木三木さんの思い出



上田市にお住まいの茂木三木（みき）さんは今年98歳、「家」建設がはじまった2年前、島田基正さんのご紹介でお会いしました。

初対面なのに「わたしも若いころかららいてうさんの名前は知っていましたよ」と気持ちよくご寄付を下さって以来のご縁です。この春には木製ベンチも寄付してくださいました。

その茂木さんが梅雨の晴れ間に「らいてうの家」に見えました。背筋をしゃんと伸ばした若々しさにも感激しましたが、若山喜志子のパネルの前で「あら、私この人とお友達だったわ。私の家に2晩も泊ったことがあるのよ。翌朝短冊を買ってきてと頼まれて、そこに短歌を書いてくださったの。今でも家の床柱に飾ってありますよ」とおっしゃるのにはびっくり。さっそく7月のある日、島田・杉山・米田の3人で自宅へ伺い、短冊を見せていただきました。ここから三木さんの一代記がー。

む守田家の10人きょうだいの5女に生まれ、小さい時から「男の子と喧嘩して負けたことがなかった」そうです。もちろんお姉さんたちもいっしょ。当時若松は石炭を積み出す港として栄え、「火野葦平は兄の同級生」でした。若松高女卒業後、同じ石炭業の第一産業社長・茂木さんと結婚、20歳の時に上田に來ますが、昭和41年ご主人は急逝、「後を頼む」といわれて57歳の三木さんが社長に。「簿記の夜学に通って経理と経営を勉強してね、仕事を覚えたの」といいます。やがて上田法人会女性部の初代会長に。島田さゐさん（基正さんのご母堂）も第三木材の社長さんで、いっしょでしたよ。まさにキャリアアウーマンの大先輩です。

ところで、肝心の喜志子との出会いはいは？  
「それはね、もともと姉の京子が若山牧水の弟子で、妹の静子も小学生時代から牧水・喜志子夫妻にかわいがられていた縁ですよ。静子は戦後牧水賞もいただきました。それで私も20歳の頃から喜志子さんと親しくしていたの。」  
どうして短歌の道にすすまなかったのですか？。「私は数学のほうが好きだったの。だから簿記の勉強は苦にならなかった」と。なるほど、明治の女学生には文学好きが多いけれど、三木さんは異色な「数学少女」。『青鞥』にも女性数学者ソーニャ・コヴァレフスカヤ伝が載っていたっけ。

数日前まで体調を崩して入院されていたというのに、さわやかなお話し物ときちんとしたお話しぶりに、ほればれと聞き入ったひとときでした。

(杉山洋子・米田佐代子)

### 〔事務局日誌〕

- 7月6日 事務局会議
- 7月11日 第2回理事会開催
- 7月12日 記録映画を上映する会理事会出席
- 7月14日 第2回森のめぐみ講座「菅平の花」講師・川上美保子さん（植生学会会員）
- 7月15日 自然観察ウォーキング・菅平
- 7月20日 辻井喬講演会資料袋詰め・上田
- 7月29日 辻井喬講演会・於上田
- 8月5日 あずまや高原自治会懇談会・雙葉同窓会山荘・米田会長出席 常任理事会 於「家」貸し出し
- 8月8日 板橋区立郷土資料館にらいてう展示資料一部貸し出し
- 8月10日 辻井喬講演会反省会・於上田
- 8月11日 「家」ライトアップ 夜の交流会
- 8月15日 定款の一部変更申請 東京都から認証書届く
- 8月19日 第7回らいてう講座 講師・米田佐代子館長
- 9月2日 第8回らいてう講座 講師・小沼通二（世界平和アピール7人委員会事務局長）
- 9月6日 記録映画を上映する会理事会出席
- 9月7日 事務局会議
- 9月14日 常任理事会
- 9月22日 午前・大久保宗秀さんによるお茶会  
午後・第9回らいてう講座 講師・宮島満里子さん（古典文学研究者）  
フルート演奏 大和田葉子さん